

サイディア・フラハの活動

サイディア・フラハは1994年にケニア政府によりNGOに認可され、これまでたくさんのケニアの子どもや女性たちを支援してきました。その活動内容をご紹介致します。

<サイディア・フラハの目的>

- 1 ケニアの子どもたちの養育・教育
- 2 児童養護施設・裁縫教室・縫製工房・幼稚園・女性支援

<サイディア・フラハの運営方針>

- 1 ケニア人と日本人の共同運営
- 2 自主財源作り
- 3 日本とケニアとの相互交流
- 4 支援対象は民族・肌の色・宗教を問わない

サイディア・フラハのある場所



<ケニア共和国カジアド県キテンゲラ市>

キテンゲラ市は、ケニアの首都ナイロビから約30km南東に位置し、海拔1500mのサバンナの中にある。遊牧民族マサイの人々が多く住む地域にあり、工業地帯として開発されているため、この地域への人口流入が激しい。サイディア・フラハ設立の頃は「町」でしたが、現在は人口25万人もいる市になりました。今後まだまだ大きくなるでしょう。

児童養護施設

1996年2月開設。現在は20名まで入居可能な宿舎があります。当初は男女を問わず受け入れましたが、現在は3才～18才までの女子を対象にしています。その理由は、ケニアではいまだ男尊女卑の傾向が強いいため、保護養育の必要性が高い女子を特に優先することにしました。現在16名の子どもが在籍しています。

- ◆年少で入園する子どもたちは幼稚園・小学校を経たあと、能力に応じて高校・専門学校(サイディア裁縫教室を含む)へ進学します。そこで、自立するための技術を修得して社会へ出ます。
- ◆年長で入園する子どもたちは裁縫教室へ入って技術を学び、社会へ出ます。

児童養護施設の宿舎



幼稚園

近隣の低所得者の子どもたちを対象として、小学校へ入学できるだけの教育を受ける機会を実現します。

教室内の園児たち



小学校

ケニアの公立小学校は、1クラスの生徒数が多いため、教育レベルが低い。そこで地域コミュニティの教育改善の要求に応じて、私立小学校を開設しました。現在は1・2学年だけですが、将来的には8学年まで扱う予定です。

近年、公立小学校の教育レベル低下が著しいため、授業料が廉価で教育レベルの高い学校が必要とされています



縫製工房

- ◆裁縫教室を優秀な成績で卒業した子どもの就職先になります。自立への第一歩です。
- ◆より高度な裁縫技術を身につけてもらう。
- ◆バッグなどの製品を制作して日本などで販売し、その利益をプロジェクトの財源の一部にあてる。

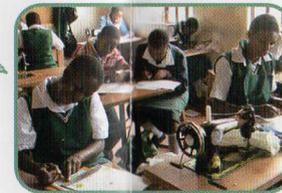
工房内での製品作り



裁縫教室

ケニアでは若者の適当な就職先がほとんどなく、しかも女子は男子に比べ極めて少ないのが現状。そこで主に女子を対象にして運営。また、この教室には孤児などの支援の子ども以外に一般家庭の有料の子どももいます。

教室内の生徒たち



女性支援

保健セミナーへの参加や、アクセサリー作りなどを通して、日々の生活維持に役立ててもらうのが目的です。



専門家の講義を受ける



裁縫教室外観

児童養護施設を卒業した子どもたちと
荒川勝巳



● 1985年

エチオピア飢饉の報道に心を動かされた荒川勝巳は、初めてアフリカへ渡る。東アフリカを見て回り、ケニアの首都ナイロビ近郊の児童養護施設で、1987～1990年まで働き、海外ボランティアについて学ぶ。

● 1992年4月

ケニアでケニア人、デニス・コーデ氏、ピーター・カルリ氏と共に三人でスラムの子どもを支援するNGOを作りはじめる。

● 1993年2月

キテンゲラ町に土地を購入、3月施設建設。7月、貧しい子どものための幼稚園を開く。

● 1994年3月

ケニア政府よりNGOとして認可される。

● 1996年2月

児童養護施設を開く。

● 2000年11月

ピーター・カルリ氏が初来日。

● 2004年1月

職業訓練センター(裁縫溶接)を開く。

● 2005年11月

長年にわたるサイディア・フラハの運営が評価され、共同運営者の荒川勝巳が社会貢献支援者賞を受賞。(主催：社会貢献支援財団)

● 2011年8月

縫製工房を開く。

● 2013年5月

デニス・コーデ氏が初来日。

● 2013年8月

設立20周年記念式典開催。



「サイディア・フラハ」とは、スワヒリ語で

“幸福の手助け”

という意味です。

サイディア・フラハは

日本人とケニア人が対等で一緒に作ってゆく、

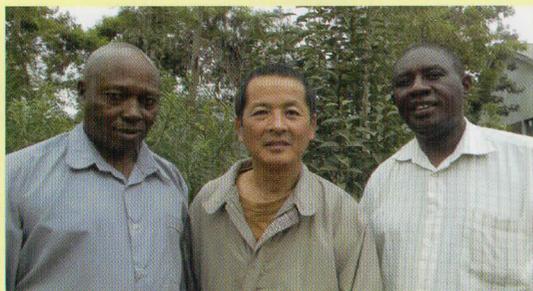
子どもと女性のためのプロジェクトです。

ぜひ皆さんも参加し、

ケニア人と協力してよりよい活動をしていきましょう。

荒川 勝巳

<サイディア・フラハ共同運営者の三人>

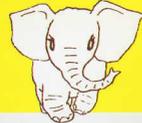


ピーター・カルリ

荒川勝巳

デニス・コーデ

「サイディア・フラハを支える会」に参加しませんか?



「サイディア・フラハ」の活動を運営・資金の両面から支援するために、1994年「サイディア・フラハを支える会」が設立されました。現在、全国各地に約160名の会員がいます。会員の方々からいただいた会費および寄付を「サイディア・フラハ」への援助資金とし、また「サイディア・フラハ縫製工房」で製作した布製品や女性グループが作ったビーズ・アクセサリを、NGOやアフリカ関連のイベントに参加して販売することで、援助資金に充当しています。近年は「サイディア・フラハ」へのワークキャンプやスタディーツアーの問い合わせにも対応しています。

ケニアの子どもと女性の自立支援に、是非あなたの力を!

個人会員(年会費)	3,000円/1口
子ども教育基金	10,000円(年会費を含む) プロジェクトで支援する小学生や裁縫教室生徒の教育にかかる費用の補助。
孤児里親制度	36,000円(年会費含む。分割可) 孤児一人を養育するのに年間10万円ほどの費用がかかる。里親3名で、一人の子どもを支えていくようにする。里親には孤児の成長記録を、随時送る。
団体会費	5,000円(年会費を含む)
自由寄付	年会費以外に金額自由な「自由寄付」を随時受け付けています。使用目的を指定することも出来ます。

会員になると

年3~4回、「サイディア・フラハ」から手書きの「ビヨンボ通信」(A4サイズ4P)がエアーメールで届き、現地の子どものたちの日常生活が生き生きと伝わります。同時に、国内での活動を伝える「Pamoja!」(A4サイズ4P)が年2~3回発行され、「ビヨンボ通信」で伝えきれないニュース、国内のイベント参加等のようすをお伝えしています。

郵便振替口座: **00170-6-111757**
加入者: **サイディア・フラハを支える会**



■ケニア共和国「サイディア・フラハ」連絡先
SAIDIA FURAHA ORGANIZATION(S.F.O)
P.O.Box10 Kitengela 00242 KENYA

■日本連絡先
「サイディア・フラハを支える会」代表・大門千春
〒176-0011 練馬区豊玉上2-1-11-901
TEL: 03-3391-6600(横山)
E-Mail: kwa-saidia@freeml.com

フェイスブック / Facebook

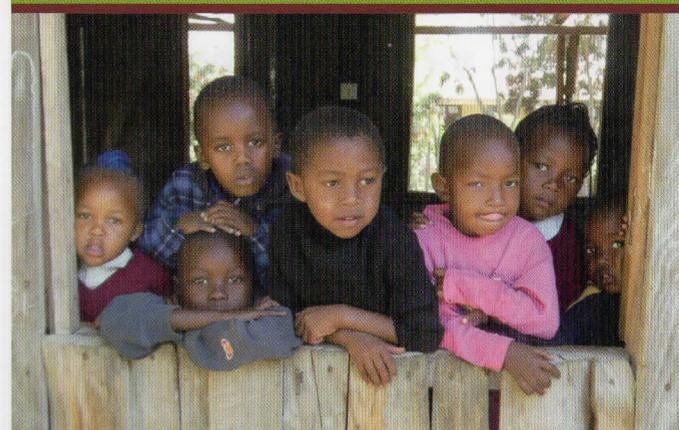
▶ <https://www.facebook.com/saidiafuraha>

「サイディア・フラハ」ホームページ

▶ http://www.geocities.jp/hiroki_site/saidia/
ビヨンボ通信のバックナンバーがご覧いただけます!

●運営委員として参加しませんか?

イベント(年間4~5回)参加、会報発行、物販民芸品の管理、等あなたの日々の時間の「少し」をわけてください。興味のある方はkwa-saidia@freeml.comへご連絡ください。



ケニアの子ども・女性と共に生きるNGO

「サイディア・フラハ」 を支える会



Since 1993

SAIDIA FURAHA